

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社グループは2019年9月をもって第124期第2四半期を終了いたしましたので、連結決算概況についてご報告申し上げ、ご理解賜りたいと存じます。



2019年12月 代表取締役社長 **ひろち あつし**
廣地厚

■ CAN20計画第2フェーズをスピードを上げて強力に展開します。

当第2四半期連結累計期間（2019年4月1日～2019年9月30日）における日本経済は、企業業績や雇用環境の改善等を背景に全体としては緩やかな回復基調にあるものの、消費増税後の景気減速懸念に加えて、米中間の貿易摩擦や欧州情勢、新興国経済の不確実性などにより、先行き不透明な経営環境が続きました。

このような状況において、当社グループでは、中期経営計画「CAN20計画第2フェーズ（2017年度～2020年度）」の3年目を迎え、『集中と結集』をキーワードに、「セグメント別事業戦略」「新規事業創

出」「経営基盤強化」の3つの基本戦略への取り組みを進めました。

機能ソリューション事業は、半導体市場の低迷による影響を受けました。アパレル事業は、差異化商品の拡販と成長販路への取り組み強化に加え、消費増税に伴う駆け込み需要もあり、順調に推移しました。

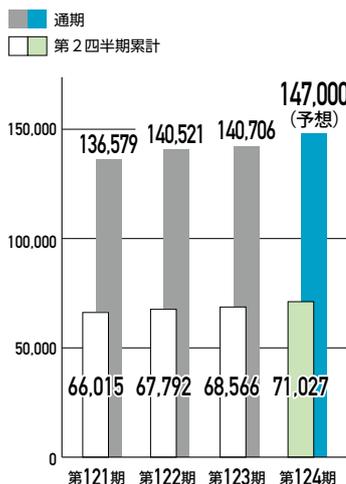
当社は、これらの取り組みを通じて、「お客さまに“こちよさ”をお届けしていく」という強い意志を持ち、社会に貢献する企業を目指してまいります。

株主の皆さまには、変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

決算ハイライト

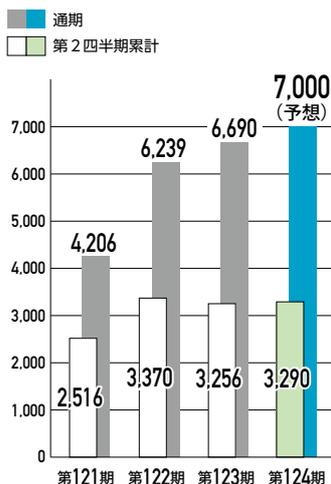
● 売上高

単位：百万円



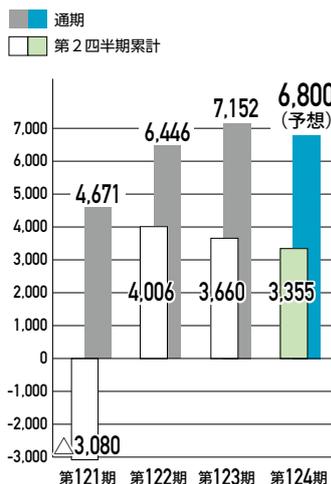
● 営業利益

単位：百万円



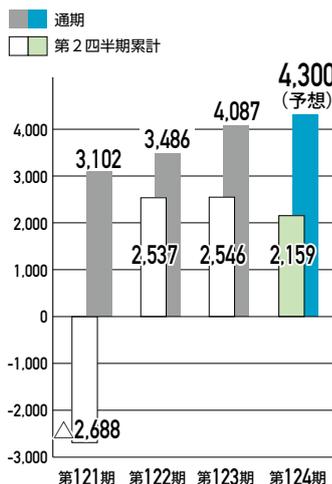
● 経常利益又は経常損失(△)

単位：百万円



● 親会社株主に帰属する四半期純利益又は四半期純損失(△)

単位：百万円



連結業績のご報告

連結貸借対照表(概要)

(単位：百万円、単位未満切捨て)

科目	2018年9月30日現在	2019年9月30日現在
資産の部		
流動資産	72,136	78,602
固定資産	99,618	95,396
有形固定資産	65,881	67,579
無形固定資産	2,206	1,962
投資その他資産	31,531	25,854
資産合計	171,755	173,999
負債の部		
流動負債	38,529	42,070
固定負債	20,510	22,406
負債合計	59,040	64,477
純資産の部		
株主資本	107,859	109,006
資本金	26,071	26,071
資本剰余金	13,926	6,727
利益剰余金	80,509	82,132
自己株式	△ 12,648	△ 5,925
その他の包括利益累計額合計	3,340	△ 1,022
新株予約権	276	212
非支配株主持分	1,238	1,326
純資産合計	112,715	109,521
負債純資産合計	171,755	173,999

流動資産 前年同期比64億円増加

現金及び預金34億円の増加、棚卸資産14億円の増加、前渡金等その他14億円の増加などにより、全体では64億円の増加となりました。

固定資産 前年同期比42億円減少

建設仮勘定等その他14億円の増加、投資有価証券53億円の減少などにより、全体では42億円の減少となりました。

流動負債 前年同期比35億円増加

支払手形及び買掛金5億円の増加、コマーシャルペーパーを含む借入金13億円の増加、未払金等その他18億円の増加などにより、全体では35億円の増加となりました。

固定負債 前年同期比18億円増加

借入金7億円の増加、長期預り敷金保証金7億円の増加などにより、全体では18億円の増加となりました。

純資産 前年同期比31億円減少

親会社株主に帰属する純利益の計上37億円、その他有価証券評価差額金40億円の減少、為替換算調整勘定5億円の減少、配当金の支払19億円、自己株式の取得4億円などにより、全体では31億円の減少となりました。

※2018年11月26日に自己株式1,700千株の消却を行ったことにより、自己株式と資本剰余金の間に71億円の増減が発生しております。

連結損益計算書(要約)

(単位：百万円、単位未満切捨て)

科目	2018年4月1日から 2018年9月30日まで	2019年4月1日から 2019年9月30日まで
売上高	68,566	71,027
売上総利益	20,029	21,308
販売費及び一般管理費	16,772	18,017
営業利益	3,256	3,290
営業外損益	404	64
経常利益	3,660	3,355
特別損益	298	△ 4
税金等調整前四半期純利益	3,959	3,350
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,546	2,159

売上高 前年同期比3.6%増加

機能ソリューション事業で22億円の増収、アパレル事業で2億円の増収、ライフクリエイト事業で微減収となり、全体では24億円の増収となりました。

営業利益 前年同期比1.0%増加

機能ソリューション事業で3億円の減益、アパレル事業で4億円の増益、ライフクリエイト事業で微減益となり、全体では僅かに増益となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：百万円、単位未満切捨て)

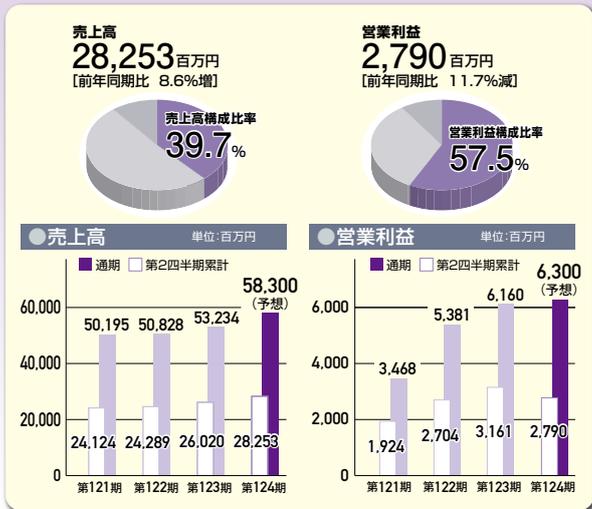
科目	2018年4月1日から 2018年9月30日まで	2019年4月1日から 2019年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,614	4,890
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,664	△ 5,588
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,483	2,374
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 514	△ 107
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 3,047	1,569
連結範囲変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	571	744
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,001	10,417

営業活動によるキャッシュ・フロー 前年同期比12億円増加

税金等調整前四半期純利益33億円、減価償却費31億円、売上債権の減少17億円、法人税等の支払額又は還付額15億円、仕入債務の減少12億円、棚卸資産の増加11億円などにより48億円の収入となり、前年同期比12億円の増加となりました。

セグメント状況

機能ソリューション事業



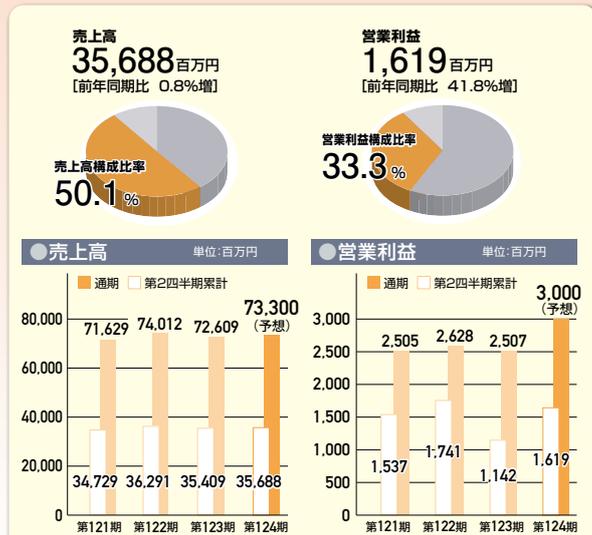
(注)セグメント合計は、セグメント間で発生した売上、利益を調整する前の数値です。

プラスチックフィルム分野は、ナイロンフィルムが堅調に推移したものの、OPPフィルムや多層フィルムは市況の影響を受け苦戦しました。

エンジニアリングプラスチック分野は、OA向け製品が堅調に推移しましたが、半導体市場向けが苦戦しました。電子部品分野は、フィルム販売は減少しましたが、中国内販は堅調に推移しました。メディカル分野は、株式会社メディカルユーアンドエイの子会社化により増収となりましたが、米国向け組織補強材の減少と治験費用等の増加影響を受けました。

<p>〈プラスチックフィルム分野〉</p>  <p>食品などの包装フィルムとして使われているナイロンフィルム</p>	<p>〈エンジニアリングプラスチック分野〉</p>  <p>半導体製造用の超純水洗浄フィルター用資材</p>	<p>〈電子部品分野〉</p>  <p>さまざまな分野で使用されるタッチパネル</p>	<p>〈メディカル分野〉</p>  <p>手術後に体内に吸収される合成人工硬膜</p>
---	--	--	--

アパレル事業

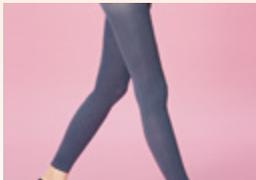


(注)セグメント合計は、セグメント間で発生した売上、利益を調整する前の数値です。

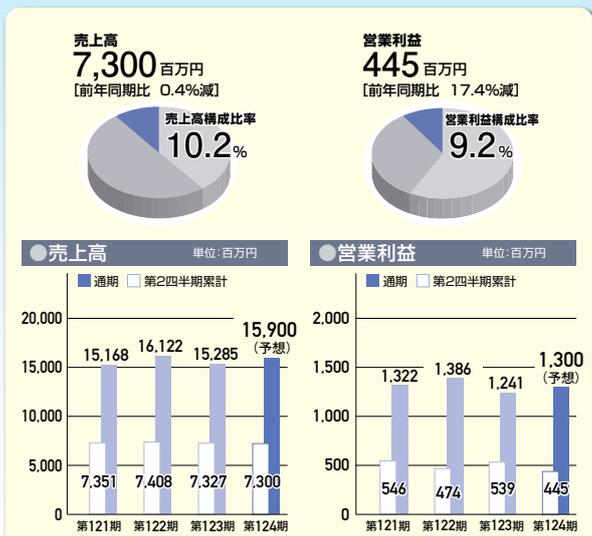
インナーウェア分野では、レディスインナーは、ブランドリニューアルしたTuchéが好調に推移しました。

メンズインナーは、前年発売したBODY WILD「AIRZ」およびTシャツ専用のインナーウェア「in.T(インティー)」等の差異化商品に加えて、スポーツカテゴリー商品が順調に推移しました。

レッグウェア分野は、レギンスが堅調に推移しました。

<p>〈インナーウェア分野〉</p>  <p>腰ゴムをなくしてストレスフリーなはき心地を実現「BODY WILD AIRZ」</p>	<p>〈レディスインナー分野〉</p>  <p>見えてもかわいいおしゃれなレースタイプブラ「Tuché LACY AIR」</p>	<p>〈レッグウェア分野〉</p>  <p>デザインで魅せるファッションレギンス「Tuché」</p>
---	---	--

ライフクリエイティブ事業



(注)セグメント合計は、セグメント間で発生した売上、利益を調整する前の数値です。

不動産関連分野では、ショッピングセンター事業は大型連休や夏休み期間を中心に堅調に推移し、賃貸事業においては新規物件が貢献しました。

スポーツクラブ分野は、会員数の減少に歯止めがかかったものの新店舗の費用負担で苦戦しました。

<p>〈不動産関連分野〉</p>  <p>グンゼタウンセンター つかしん (兵庫県尼崎市)</p>	<p>〈スポーツクラブ分野〉</p>  <p>グンゼスポーツクラブは全国22店舗で展開しています</p> <p>PLANT出雲店 (島根県出雲市)</p>
---	--

株主優待について

9月末 / 中間期のみ

保有株数と保有年数に応じた優待額を贈呈
ご希望の商品と交換いただけます。

贈呈商品

贈呈商品の中から優待額
の範囲内で好きな商品と交換

商品クーポン

GUNZE STORE
(グンゼ公式通販)でお買物の際
にご利用いただけるクーポンを発行

寄付

優待額1,000円を1口として、
子供の未来応援基金へ寄付

年2回 毎年9月末・3月末

さらに **30% 割引優待**

通販カタログ「セlestail」
で割引優待にてご購入いただけます

※カタログはイメージです



保有株数	株式保有年数		
	3年未満	3年以上5年未満	5年以上
100~299株	2,000円相当	3,000円相当	4,000円相当
300株以上	4,000円相当	6,000円相当	8,000円相当

※2019年度中間期の株主優待は2019年9月30日を基準とした保有株数と保有年数に基づき実施いたします。
※保有年数は、毎年9月末日を基準日とし、同一株主番号で継続して株主名簿に記録されている年数です。
(当社株式をすべて売却した後に、再度当社株式を購入された場合は、継続保有となりません。)

株式の状況 (2019年9月30日現在)

発行済株式の総数 19,293,516株

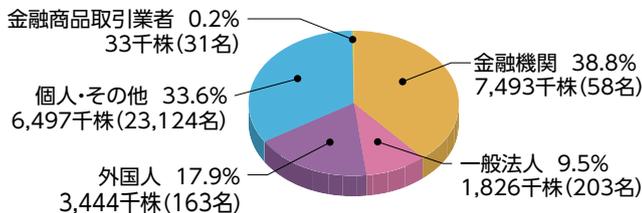
◎自己株式 (2019年4月1日から2019年9月30日)

取得 216千株 (953百万円)
処分 59千株 (321百万円)
期末 1,377千株 (5,925百万円)

※自己株式には「グンゼグループ従業員持株会専用信託」による取得等を含んでおります。

◎単元株式数：100株

株主数 23,579名



(注)円グラフは発行済株式数に対する保有割合

大株主一覧 (上位10名の株主)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	3,422	19.06
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	663	3.70
株式会社三菱UFJ銀行	613	3.42
株式会社京都銀行	587	3.27
全国共済農業協同組合連合会	438	2.44
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	425	2.37
第一生命保険株式会社	414	2.31
グンゼグループ従業員持株会	342	1.91
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	318	1.78
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	306	1.71

(注)当社は、自己株式1,339千株(グンゼグループ従業員持株会専用信託の保有株数は除く)を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

会社の概況 (2019年9月30日現在)

社名 グンゼ株式会社
 設立年月日 1896年8月10日
 資本金 26,071百万円
 従業員 1,721名(単体) 6,520名(連結)
 本店 京都府綾部市青野町膳所1番地
 大阪本社 大阪市北区梅田二丁目5番25号
 (ハービスOSAKAオフィスタワー)
 TEL(06)6348-1313
 東京支社 東京都中央区日本橋二丁目10番4号
 TEL(03)3276-8710

※取締役、監査役、執行役員などの変更はございません。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 6月下旬
 株主総会・期末配当金基準日 3月31日
 公告方法 電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

上場取引所 東京(第1部)
 証券コード 3002
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
 〒541-8502
 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
 TEL: 0120-094-777(通話料無料)